

豊竹英大夫の教え子集う「はなつる会」 義太夫節 南光も初参加



文楽太夫、豊竹英大夫の義太夫教室に通う受講生たちの発表会「はなつる会」が9月1日、大阪市中央区の大槻能

楽堂で開催される。今年も教え子の一人で落語家の桂南光Ⅱ写真Ⅱも初参加。義太夫節を披露する。

かつての上方では、船場の旦那衆が趣味で、文楽太夫に義太夫節を習う文化が根付いていたが、時代の変化に伴って、近年はほとんどなくなった。

英大夫は、12年前、「勉強の一環として学びたい」という落語家らの要望に応じて義太夫節の教室を始めたところ、「発声法が健康増進にもなる」と年々人気が集まり、現在は

弁護士、編集者、アナウンサーら様々な職業の男女約60人が指導を受けている。

7年前からは年1回、教え子による発表会を開催。今年も39人が出演し、「絵



昨年の発表会の様子

本太功記」や「義経千本桜」の名場面を語る。英大夫の見台を借り、袴を着用して語るといふ本格的な舞台上、伴奏は文楽三味線の竹沢団吾、鶴沢清丈が務める。

昨年からは、レッスンを受けている南光はトップバッター。「近頃河原の達引」の堀川猿回しの段に挑戦する。

英大夫は「気軽に始めた人たちが困難を克服して、上達していく姿を目の当たりにすると、感動して涙がこぼれます。昔、先輩太夫たちは『素人さんから学べ』と言ったくらいで、教えることは自身の芸の修業にもなります。義太夫節の愛好者を増やしていくことで、文楽に興味を持つファン層が広がってくれたら」と話している。

午前11時から午後6時過ぎまで。

入場無料。☎06・4304・2426。